

2024 年度事業報告

2024 年度の社員総会で議決された事業計画の実施結果を以下のとおり報告する。

I. 総括

セーフティグローバル推進機構は、「安全・健康・ウェルビーイング」を提唱して、IEC 白書“Safety in the Future”への参画(2020 年)、第 2 回ビジョンゼロサミット(2022 年)の日本誘致、未来モノづくり国際 EXPO2023 内での展示会・シンポジウムの開催、書籍「実践！ウェルビーイング」の刊行などの活動を実施してきた。これらにより、世界各国の労働安全衛生関連団体と関係を構築し、国内外においてセーフティグローバル推進機構の認知度を高めてきた。2024 年度も、未来モノづくり国際 EXPO2024(11 月 13 日～15 日)内で、ウェルビーイングテックフォーラムを主催し、また、Global Initiative for Safety, Health & Well-being at EXPO2025 and Beyond(以下 GISHW)へ参画し大阪関西万博（以下 EXPO2025）における「安全・健康・ウェルビーイング」関連イベントの企画・準備を進めており、国内外でのプレゼンスを高めている。

上記の活動やモノづくり委員会への入会希望企業の増加により、新規入会数は順調に伸びている。

また、近年セーフティグローバル推進機構は、ケガ・病気・ストレスを最小化する(働く人々の状態をマイナスからゼロにする)のみならず、安全・健康・ウェルビーイングを向上させ(働く人々の状態をゼロからプラスにし)、生きがい・やりがい・働きがいを持って働ける社会を実現することを目指すべきであると提案している。そして、それを目指す技術を「ウェルビーイング・テック」と呼び、その適用を推進している。

II. 重点施策活動概要

1. 要員認証および適合審査

それぞれの拡大のための仕組みや組織化の検討と推進、新たな制度開発などに取り組んだ。

1) ロボットセーフティアセッサ資格認証制度

2024 年度のロボットセーフティアセッサ受験者数は 202 名であり、目標 260 名は未達に終わった。また前年度(231 名)実績からも減少に転じた。

ロボットセーフティアセッサのメインターゲットであるシステムインテグレータの受験者数の増加のために、日本ロボットシステムインテグレータ協会(以下 Sier 協会)向けにロボットアセッサ取得動機付け講習会を実施した(Sier 協会員 51 名が参加)。徐々にロボットアセッサの認知度は向上しているが、受験者の増加には結びついていない。引き続き Sier 協会員向けの受験促進活動を実施する。

2) セーフティオフィサ資格認証制度

建設業のセーフティオフィサ資格に対するニーズに応えるべく、2024 年 10 月から建設セーフティオフィサ資格の提供を開始した。

2024 年度のセーフティオフィサ資格の受験者は 812 名(建設セーフティオフィサ 83 名含む)であった。目標 1,350 名に大幅に未達であり、また前年度(1,179 名)から大きく減少している。大口顧客(会社の施策としてセーフティオフィサの取得を実施する企業)の対象者が受験を終え、その後顧客開拓ができていないことが大きな要因である。今後セーフティアセッサ資格を多数取得している企業へのセーフティオフィサ資格取得を促進する。

3) Safety2.0 適合審査登録制度

2024 年度の Safety2.0 適合審査登録数は 1 件であった。当初目標としていた 3 社のうち 2 社が顧客の事情により申請まで至らなかった。

2024 年度からセーフティグローバル推進機構をスキームオーナー、日本認証を認証機関とする新たな体制に変更した。また、審査の精度を高め、申請者の費用負担を軽くするために、申請内容に対して深い知識を持つ人や、セーフティアセッサの資格を所持するなど機械安全に関するスキルを持つ人が審査に参加できるよう、制度を見直した。これにより、2025 年度から新しい制度の運用を開始する。引き続き、会員企業を中心に Safety2.0 適合審査の認知活動と申請を促進する。

2. 広報・宣伝活動

1)安全経営フォーラム

2024 年 6 月 21 日ビジョンセンター新橋において、安全経営フォーラムを以下のテーマ・講演者で実施した。

① ロボットと作る未来～ロボット政策の方向性～

経済産業省 製造産業局 産業機械課 ロボット政策室 室長 石曾根 智昭 氏

② 協調安全のホリスティックアプローチの世界への発信

～GISHW 活動を通じて万博を活用した展示会・シンポジウムでの仲間作りや国際標準化推進による日本発の協調安全産業&ウェルビーイング・テック産業の創成～
一般社団法人セーフティグローバル推進機構 藤田 俊弘 理事

2)ウェルビーイング・テック、国際シンポジウム

2024 年 11 月 13 日から 15 日にかけて、未来モノづくり国際 EXPO2024 がインテックス大阪(大阪国際見本市会場)にて開催された。

本展示会内で、一般社団法人セーフティグローバル推進機構／ウェルビーイングテックインターナショナル企画推進委員会が「ウェルビーイングテックフォーラム」を主催。以下のプログラムを実施した。また、ロボットシステムにおける協調安全のコンセプト展示を実施した。

- ① 基調講演：GISHW の取り組みと EXPO2025 で国際連携が成し遂げようとしていること

GISHW 議長、セーフティグローバル推進機構 藤田 俊弘 理事

- ② 第一部：世界的な企業目標：安全、健康、ウェルビーイングの実現

【なぜ今、日本企業にとって世界潮流との連携が重要なのか】

ファシリテータ キャノングローバル戦略研究所 栗原 潤 氏 (IGSAP 理事)

- ③ 第二部：協調安全が推進する働く風景や環境の新たな創造

【人不足の時代に中小・中堅企業にも人とロボティクス・AI の共存環境の導入を】

ファシリテータ 産業技術総合研究所 谷川 民生 氏

セーフティグローバル推進機構 梶屋 俊幸 理事

- ④ 特別講演：EXPO 170 年の歴史上初【世界が目指す安全・健康・ウェルビーイング社会と GISHW の役割】

GISHW 副議長、国際労働災害予防基金(ORP)理事長 ハンスホルスト・コンコレフスキー 氏

- ⑤ 第三部：80 億人への贈り物：EXPO 2025 の歴史的イベント

【安全、健康、ウェルビーイングに関して EXPO2025 で成し遂げること
経営者必見】

ファシリテータ キャノングローバル戦略研究所 栗原 潤 氏 (IGSAP 理事)

3)雑誌への投稿

- ①日本規格協会グループの季刊誌『標準化と品質管理』2024 年冬号にて、「協調安全の国際標準化推進」をテーマとした特集記事を寄稿し、協調安全の国際標準化活動について普及を行った。

記事表題と執筆者

- ・新しい時代の安全：協調安全(Safety2.0)とウェルビーイング
セーフティグローバル推進機構 向殿 政男 会長
- ・国際標準化活動と協調安全
セーフティグローバル推進機構 井上 悟志 理事
- ・協調安全を実現するホリスティックアプローチと要員力量認証制度
セーフティグローバル推進機構 梶屋 俊幸 理事
- ・協調安全技術とロボティクスにおける社会実証事例の紹介
セーフティグローバル推進機構 吹田 和嗣 理事
- ・トヨタ自動車の協調安全の取り組みと、IGSAP モノづくり委員会発足の背景
モノづくり委員会 村田 斉彬 委員長（トヨタ自動車株式会社）

- ②公益社団法人自動車技術会（会員数約 45,000 名、賛助会員〈法人〉約 700 社）の学会誌『自動車技術』に、「新しい時代の安全 ～協調安全～」をテーマとした記事を寄稿した。
本記事は、モノづくり委員会の村田斉彬委員長と松浦裕士事務局長によって執筆された。

4)第 9 回向殿安全賞

産業安全の向上と進歩・普及などに貢献した個人または団体を表彰する「向殿安全賞」の募集を行い、審査を経て以下の受賞団体、受賞者が決定した。

表彰式は、前述の未来モノづくり国際 EXPO2024 内で実施した。

[受賞者]

団体（企業）の部

【功績賞】北陽電機株式会社

受賞表題「セーフティレーザスキャナの開発及び普及」

【功績賞】三菱電機システムサービス株式会社

受賞表題「SA 資格制度を活用したロボットシステムインテグレータ育成の実施」

【特別功績賞】国際労働衛生委員会(ICOH)

受賞表題「世界的な労働安全衛生分野における貢献」

個人の部

【功労賞】小澤 守 氏〔関西大学 名誉教授〕

受賞表題「機械安全及び社会安全への貢献」

【功績賞】落合 一幸 氏〔落合労働安全コンサルタント事務所・代表〕

受賞表題「電気関係事業における労働安全への貢献」

【功労賞】Mr. Joaquim Pintado Nunes〔国際労働機関（ILO）・労働安全衛生部門の責任者〕

受賞表題「世界の労働安全衛生への貢献及び若者に対する働く環境の向上への貢献」

【功労賞】Dr. Tommi Alanko〔Finnish Institute of Occupational Health(FIOH) フィンランド労働衛生研究所〕

受賞表題「世界の働く場の安全健康ウェルビーイング促進に対する主導的貢献」

【功績賞】Ms. Andresa Hernandez〔Siemens 安全担当副社長〕

受賞表題「全世界のシーメンス社で革新的な安全文化構築に貢献」

5)ホームページリニューアル

10 月下旬にホームページのリニューアルを完了した。これは、①会員に対して有益な情報を提供すること(会員ページの新設)、②IGSAP の活動をわかりやすく、またタイムリーに公開することで、IGSAP の認知度向上と新規会員獲得を目指すものである。

6)GISHW (Global Initiative for Safety, Health and Well-being @ EXPO2025 and BEYOND)での活動

「地球市民 80 億人の安全・健康・ウェルビーイング向上の実現を目指す」グローバルな組織 GISHW に、セーフティグローバル推進機構は主催者の一員として参加している。

①EXPO2025-未来への贈り物 80 億人の安全・健康・ウェルビーイング-

GISHW では、一昨年度から、国内外の多くの団体、企業と連携しながら(海外団体とは MOU を締結し、国内団体、企業には後援してもらうなど)、7 月 16 日から 19 日に開催

される EXPO2025 での「安全・健康・ウェルビーイング」シンポジウムや展示会など7つのイベントの企画・準備を進めている。

<7つのグローバルイベント>

- ◇ハイレベル・サミット：すべての人の安全、健康、ウェルビーイングについて
国際専門機関・団体とグローバル企業リーダーたちによる議論・意見交換
- ◇プロフェッショナル世界大会：労働安全衛生に関する専門家たちの世界大会
8つのテーマで議論（4つのワークショップ）
- ◇国際シンポジウム：ポリシー・セッション（安全・健康・ウェルビーイングのための政策）とプラクティス・セッション（安全・健康・ウェルビーイングのための活動事例）
- ◇ILO ユース कांग्रेस：デジタル時代の若者が考える職場におけるウェルビーイング
高校生・大学生対象のピッチコンテスト
- ◇フェスティバル：未来社会に繋がるウェルビーイングテクノロジーなどを楽しみながら
体感
- ◇展示会：未来モノづくり国際 EXPO2025 内においてウェルビーイングテクノロジー展、
ウェルビーイング建設技術展、ウェルビーイング・ファインバブル産業展を開催
- ◇国際標準化フォーラム：“いのち輝く未来社会のデザイン”のための安全・健康・ウェル
ビーイングと標準化をテーマに、AI、ロボティクスによる協調安全の実現、ウェルビー
イングと標準化について講演やパネル形式で討議

②GISHW 東京円卓会議

一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所主催で、世界の著名な専門家や IGSAP 関係者による講演に加え、5つのテーマに基づいた討議を実施した。IGSAP は、EXPO2025 に向けて世界各国と連携して推進する「安全・健康・ウェルビーイング」の考え方について講演した。

「安全・健康・ウェルビーイングの将来：ヒューマン・ロボット・インタラクション（HRI）を念頭に」

・日時:2024 年 11 月 18 日（月）13:00～17:00

・場所:日本工業倶楽部

・プログラム

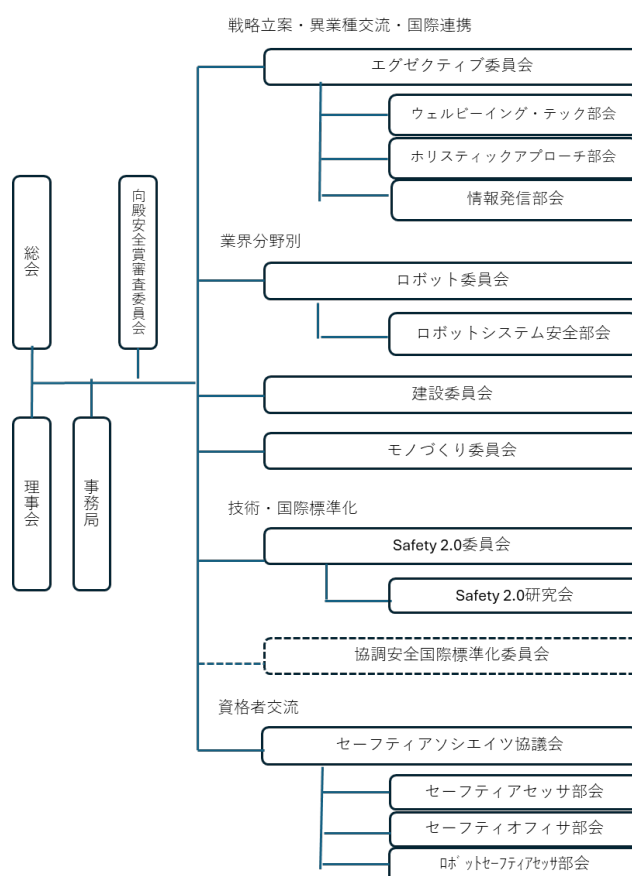
ーGISHW 最新情報&大阪エグゼクティブ委員会会議報告

ーSession1:世界の企業・機関による安全・健康・ウェルビーイングテクノロジーの活用事例：日本、ドイツ、デンマーク

- －Session2:職場における安全・健康・ウェルビーイング（SHW）のグローバル課題
- －Session3:万博が目指すもの：SHW@Work への参加と様々な分野における共創の可能性
- －World Café(討議)
 - Topic 1: ビジョンゼロとリーダーシップ
 - Topic 2: デジタルリゼーション、AI&ロボティクス
 - Topic 3: ウェルビーイング テクノロジー：誰ひとり取り残さない
 - Topic 4: 万博 SHW デイズプログラムの紹介&世界へのプロモーション
 - Topic 5: EXPO2025 での共創のターゲット – SHW デイズ

3.委員会活動

2024 年 1 月に設置・始動した「モノづくり委員会」が本格的に活動を開始した。それぞれの委員会・協議会・部会においては、その組織の魅力度の向上を目指し、実施計画に基づいた活動を実施した。目標のひとつであった委員会間の連携については、安全経営フォーラムや GISHW の活動(ウェルビーイングテックフォーラム、東京円卓会議など)を通じて、安全・健康・ウェルビーイングに関する情報を共有して活動を行った。



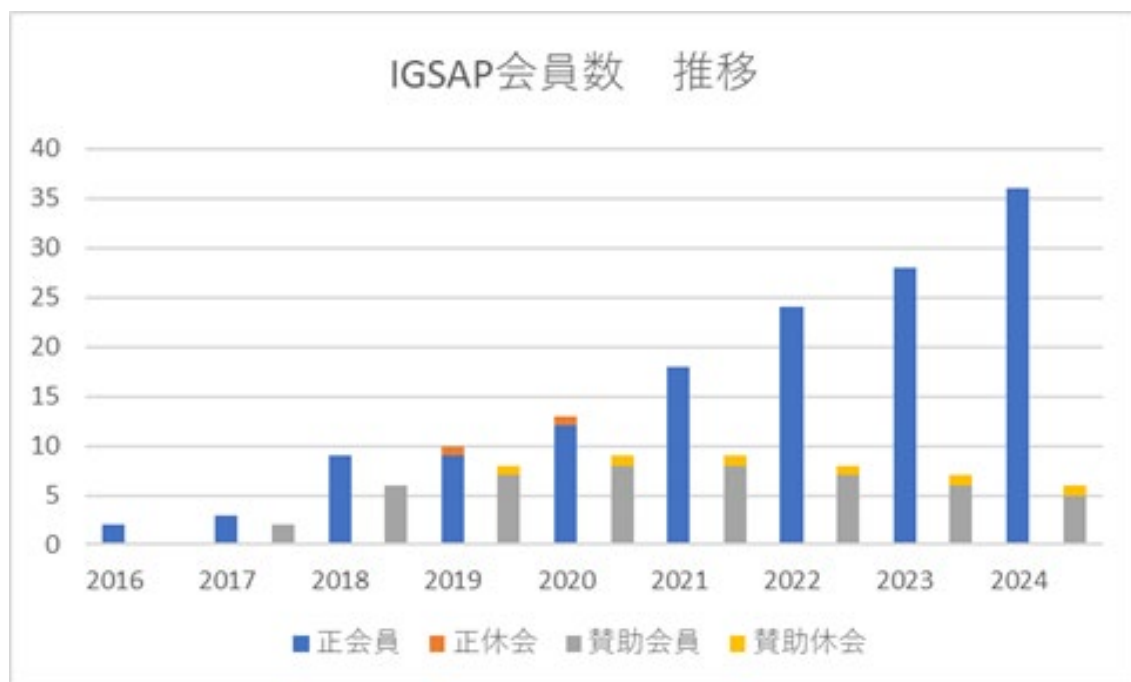
図：セーフティグローバル推進機構 の組織図

委員会、研究会、部会	責任者
エグゼクティブ委員会、安全経営フォーラム	藤田委員長
ロボット委員会	小平委員長
建設委員会	河田委員長
モノづくり委員会	村田委員長
Safety2.0委員会	谷川委員長
Safety2.0研究会	谷川主査
ロボットシステム安全部会	野田部会長
ウェルビーイング・テック部会	北條部会長
ホリスティックアプローチ部会	梶屋部会長
情報発信部会	荻原部会長
S A協議会	小平会長
S A部会	藤田部会長
R S A部会	圖子部会長
S O部会	黒澤部会長

表：各組織長

4. 会員数

2024 年度は、モノづくり委員会への参加を希望する企業を中心に、法人正会員として沖電気工業株式会社、新東工業株式会社、株式会社トヨコー、パナソニック ホールディングス株式会社、大和ハウス工業株式会社、西松建設株式会社、ファナック株式会社、NTT アノードエナジー株式会社の 8 社が新たに入会した。しかしながら、賛助会員の西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社と株式会社レールソリューションズの 2 社が退会した。引き続き新規会員の入会を促進していく。



表：会員の入退会推移（2025 年 3 月 31 日現在）

Ⅲ. 定時社員総会・理事会の活動報告

1. 定時社員総会

2024 年 6 月 21 日に定時社員総会を開催し、以下の議案が原案どおりに可決された。

(議案)

第 1 号議案 2023 年度事業報告、ご承認の件

第 2 号議案 2023 年度決算報告、監査報告、ご承認の件

第 3 号議案 2024 年度基本方針及び事業計画、ご承認の件

第 4 号議案 2024 年度収支予算、ご承認の件

第 5 号議案 役員の任期満了に伴う改選、ご承認の件

2. 理事会

2023 年 4 月から 2024 年 3 月までの間に理事会を 5 回開催し、以下の事項について決議を行った。

(1) 第 1 回理事会 (2024 年 5 月 30 日)

(議決事項)

第 1 号議案 理事候補の重任、新任 承認の件

第 2 号議案 正会員入会 承認の件

第 3 号議案 2023 年度実施計画報告と決算報告 承認の件

第 4 号議案 2024 年度実施計画と予算案 (3 月理事会からの改定) 承認の件

第 5 号議案 IGSAP (略称) 使用と商標登録の件

第 6 号議案 セーフティオフィサ規程見直し 承認の件

(報告事項)

1) 社員総会、安全経営フォーラム、懇親会について

2) 委員会年間スケジュール

3) 協賛報告 (一般財団法人日本規格協会、一般社団法人 PL 対策推進協議会)

(2) 第 2 回理事会 (2024 年 6 月 21 日)

(議決事項)

第 1 号議案 会長 (代表理事) 選定の件

(3) 第 3 回理事会 (2024 年 9 月 5 日)

(議決事項)

- 1)第 1 号議案 正会員入会、個人正会委員入会 承認の件
- 2)第 2 号議案 電子取引データの訂正及び削除の防止規程制定、委員会規程改定 承認の件
- 3)第 3 号議案 建設 SO の開始 承認の件
- 4)第 4 号議案 執行理事体制の実施 承認の件

(報告事項)

- 1)ホームページリニューアル PJ の進展状況
- 2) EXPO2025 に向けた活動
”GISHW (大阪/東京イベント)、モノづくり EXPO2024 シンポジウム”
- 3 吹田理事ドイツ出張の件
- 4) Safety 2.0 適合審査の拡大案

(4)第 4 回理事会 (2024 年 12 月 12 日)

(議決事項)

- 第 1 号議案 SA 部会長、SO 部会長 承認の件
- 第 2 号議案 Safety2.0 関連規定の改定 承認の件
- 第 3 号議案 向殿安全賞の関連規程の改定 承認の件

(報告事項)

- 1)本年度予算の進捗状況
- 2)来年度計画と本年度計画についての方針
- 3)大阪・東京の GISHW 会議報告と EXPO2025 に向けて
- 4)ホームページのリニューアル

(5)第 5 回理事会 (2025 年 3 月 13 日)

(議決事項)

- 第 1 号議案 会長交代および名誉会長規程承認の件
- 第 2 号議案 モノづくり委員会委員長承認の件
- 第 3 号議案 正会員入会承認の件
- 第 4 号議案 顧問の来期契約の件
- 第 5 号議案 来年度計画、各委員会、部会承認の件
- 第 6 号議案 来年度予算案承認の件

(報告事項)

- 1) 緑十字賞、顕功賞推薦について 資料 7
- 2) 安全経営フォーラム、社員総会について
- 3) 理事会日程

- 4) 協調安全のリスクアセスメント（一般財団法人日本規格協会の公募制度活用）
- 5) EXPO2025 に向けての GISHW の活動

項目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
社員総会			21 日									
理事会		30 日	21 日			5 日			12 日			13 日
建設委員会		22 日			29 日			26 日			27 日	
ロボット委員会		20 日			19 日				2 日		17 日	
ロボットシステム 安全部会		20 日			9 日				2 日		17 日	
Safety2.0 委員会		22 日			29 日			26 日			27 日	
Safety2.0 研究会		22 日			29 日			26 日			27 日	
エグゼクティブ 委員会						13 日			12 日			13 日
安全経営フォーラム			21 日									
モノづくり委員会	25 日	27 日		22 日		10 日	22 日		10 日		26 日	11 日

表：2024 年度総会、理事会、委員会、部会、研究会の開催実施日一覧

以上

2024年度活動総括

*主に成果を中心に

1. GISHWの一員として、EXPOにおけるイベント企画・準備を進めた
2. 国内外において協調安全やウェルビーイング・テックなどに関する広報・普及活動を実施した
3. IGSAPの魅力や認知を高める活動を推進中である

重点テーマ	2024年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. EXPO2025に向けて国内外企業、機関と連携したイベント（展示会、シンポジウム、企業視察など）の検討、実施	・ GISHWへ参画し、EXPO2025におけるイベント内容について企画し、開催に向けて準備を進めている。 ・ 未来モノづくり国際EXPO2024(11月13日～15日)内で、ウェルビーイング・テックフォーラムを主催し討論会を実施。 ・ 第11回SIAS(6月12日～13日、フィンランド)において、IGSAP参加の日本代表団が協調安全、ウェルビーイング・テック、ポジティブセーフティなどについて発表。 ・ 安全経営フォーラム(6月21日)において、協調安全、EXPOに関して講演。	○	・ EXPO2025に向けた企画や準備は順調に進んでいる。 ・ 未来ものづくりEXPO、SIAS、安全経営フォーラムなどの機会を活かし、協調安全・ウェルビーイング・テックの広報・普及活動に成功した。	・ 引き続きGISHWの主催者の一員として、関係団体とともにEXPO2025の企画・準備にまい進する。
2. 魅力度、認知度向上の取り組み(IGSAP会員、社会一般に向けて) 1)Webサイトリニューアル(情報発信部会) 2)ウェルビーイングテック実証実験(ウェルビーイング部)	1)IGSAP新ウェブサイトを公開した(10月) 2)なし	△	1) リニューアルの目的(会員企業へ便益を提供しIGSAP加盟の満足度を高める、非会員・一般へはIGSAPの認知度を高める)に沿ったリニューアルが実施でき、IGSAPの魅力や認知の向上に貢献した。 2)なし	1) 公開後半年をめぐに、Webサイトの利用調査を実施、評価し、今後の改善点等について検討する。 2)なし
3. メンバー間交流(情報交換、討議)	IGSAPの国際活動に関する情報提供とそれに基づく討議を行った。	○	IGSAP(GISHW含む)の国際活動に関する情報提供や討議、委員各位への協力依頼などを実施することにより、委員各位の国際活動への理解促進やEXPO2025への参画意識の醸成ができた。	

注) 評価 90～100%達成 ○
 50～89%達成 △
 50%以下 ×

ロボット委員会

2024年度活動結果

2024年度活動総括	* 主に成果を中心に
1. Sierのロボットアセッサ資格取得目指し、Sier協会とのコラボ実施。	
2. 生活支援ロボットの製造現場での活用について調査研究	
3. ロボットシステム設計者の力量基準検討	

重点テーマ	2024年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. ・RSA資格制度の普及、促進活動 日本認証と協業して各種団体への広報、普及活動 ・Sier協会 春期、秋期講習会実施 ・RSA部会と連携活動	・Sier協会事務局と連携して、SSA、RSA受験のための講習会を実施。 ・展示会等においてRSA資格を含めたSA資格制度の啓発活動の実施。 ・RSA部会スキルアップミーティング活動報告を通じて協働ロボット調査研究の実施。	○	・Sier協会会員に向けてRSA資格推進のための動機づけセミナーを実施し、多数の参加者があったものの、冬期試験募集では非常に少ない結果となった。 ・JC出展展示会において、SA資格制度普及のための啓発活動を実施し来場者の方々にRSA資格について普及活動を実施、多数の方々に興味を持っていただいた。 ・2月にRSA部会スキルアップミーティングを実施し、協働ロボットの普及状況や導入の問題点など情報収集を行った。	Sier協会と更なる連携を図り、RSA資格者の増加を図っていきたい。 また、RSA部会を魅力ある活動にして、委員会と連携しながら広くRSA資格制度の普及につなげていきたい。
2. ロボットシステムの安全における課題／調査 ・AMR／協働ロボット／産業用ロボット／サービスロボット等	・昨年度研究成果より、協働ロボットの活用研究の一環として生活支援ロボットの製造現場での活用について研究を実施。	○	川崎重工業羽田イノベーションセンターでの調理、配膳協働ロボットの実証実験を見学し、協働ロボットのリスクアセスメントとリスク低減について研究。製造現場においてサービスロボット導入課題について検討した。	各種分野にて活躍しているロボットシステムの安全について製造現場での活用の課題について、今回の川重の実証実験の見学を通じて研究を更に深めてその成果を公開していきたい。
3. ロボットシステム分野における人材育成 ・プロセス毎の力量基準リストに基づき、現行教育、資格の見直しと必要とすべき教育・資格を提案	・昨年度作成の力量基準案について、精査実施して資料化する。	○	システムインテグレータの求められる力量について検討を行い、現行RSAの力量との分析を実施。	力量基準に沿ったRSA資格制度となっているかについて、検証を実施してRSA資格者の求める力量を明確化していきたい。

注) 評価

90～100%達成
50～89%達成
50%以下

○
△
×

建設委員会

2024年度活動結果

2024年度活動総括	* 主に成果を中心に
1. 建設セーフティオフィサの開発、運用開始。 2. 未来モノづくりEXPOにて河田委員長 発表 3. Safety2.0委員会との協業で建設現場における「協調安全」を議論。継続を決定。 建設委員会:5月26日、8月24日、12月23日、2月27日	

重点テーマ	2024年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. 建設業界での安全への取り組み、安全方策を国内外に発信することにより、IGSAPの知名度、認知度の向上を目指し会員数を増加する。 ・国内外の講演会での講演、雑誌において記事投稿する。	未来モノづくりEXPO2024にて河田委員長が建設業における協調安全について発表。 SIAS2024にて大和ハウス工業がSafety2.0高所作業車のポスターセッション紹介。 建設委員会として7月に開催されるGISHW国際シンポジウムのセッションに議長として参画を決定。	○	国際的な学会におけるIGSAPの認知度、安全への取り組みの発表を行う。	国内向けの発表場所の案はでたものの、投稿には至らず。来年度は日経BPを通じて投稿を計画することに合意。
2. 建設業界での安全方策(IGT活用した商品、システム及び安全事例、課題)の発表から安全方策について討議、検討、実行する。 ・発表(委員会参加各社、外部有識者、建設関連会社など) ・建設セーフティオフィサの開発。 ・7ゴールデンルール(建設向け)の公開	・建設セーフティオフィサの建設委員会の監修、トライアルに建設委員会メンバーが協力。	○	・11月から建設セーフティオフィサの申し込みを開始。 12月、2月の試験で137名の資格者を建設業界に排出。 ・/パトライト(株)による協働ロボットと開発機器の実験展示の結果を共有。	・各社の安全への取り組みの情報共有、討議は効果があり継続して実施していく。 ・IGSAPの提唱する協調安全を、建設現場で実現するSafety2.0(システム)、現場安全に関する知識、意義を共通言語で共有する為の建設セーフティオフィサ資格(ヒト)を建設委員会メンバーで推進し、建設業界の安全に貢献していく。
3. iConstruction関連の下記2つのPJでの安全への取り組みに対する情報を委員会で共有するとともに、GSAPの建設委員会として建設における協調安全について提案の土台作りをする。(他委員会との協業も視野) * 国交省(自動化・自律協議会) * (一社)日本建設業連合会(協調領域WG) 検討テーマ:発注者、設計者、施工業者の連携によるリスク低減、人(作業員、運転者)への支援システム、無人(遠隔)運転、ドローンの安全、人材育成など	国交省の動きが止まっていた。	×	国交省としての活動が止まっているという事実のみの情報をなる。	国交省が主体のプロジェクトであり、時間がかかるが、省庁との関係は重要。継続して情報共有は行おうが計画的に進めることはしないことで決定。
4. Safety2.0委員会との連携 協調安全技術に関する、建設委員会の課題を共有し、実現場を使った概念実証の素案を作成する。	第1回 Safety2.0委員会の協業にについて。 第2回 Safety2.0の定義、目的について勉強会 第3回 建設業における協調安全・Safety2.0の具体化案を募集 第4回 現場の災害事例をもとに、Safety2.0の方策を議論。	○	今年度、委員会の枠を超えて議論を行うことで、建設委員会メンバーの協調安全・Safety2.0に対する理解度を上げていく必要があることがわかる。	来年度は具体的な災害事例ベースでWGを設置して議論を進める方針。建設現場における「協調安全の定義」を明文化できるように進める。

注)評価

90～100%達成
50～89%達成
50%以下

○
△
×

Safety2.0 委員会

2024年度活動結果

2024年度活動総括	* 主に成果を中心に
1. 協調安全の普及の必要性について理解する人材が増加している。協調安全の実現手段について定量化し、市場へ普及させる活動を強化していく。	
2. 各委員の協力により、協調安全を実現する上での様々な観点からの情報を共有することができた。	
3. 委員会 第1回 2024/5/22(委員会研究会合同)、第2回 2024/8/29(委員会研究会合同)、第3回 2024/11/26(委員会研究会合同)、第4回2025/2/27(委員会研究会合同)	

重点テーマ	2024年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. Safety2.0委員会 協調安全技術の普及拡大のための検討、企画推進を行っている。 産学での協調安全の認知度を高めるため学会等・展示会での活動を計画	ロボット学会学術講演会RSJ2025にて、人・ロボット協調による『合業』型生産システムに於いて、【行動分析に基づいた安心停止スイッチの適用と評価】以下の方が中坊様(産総研)・吹田様(大同大学)発表 SIAS安全国際会議(2024.6)での関連発表 ポジティブ・セーフティ／梶屋様(IGSAP) 協調安全の適用例／荒谷様(トヨタ) サービスロボットの安全管理規格／中坊様(産総研) 他	○	協調安全についての関心度を高めることができた。	他機関との連携で協調安全に関するオーガナイズドセッションを企画していく。
2. Safety2.0委員会 協調安全技術に関する、建設委員会の課題を共有し、実現場を使った概念実証の素案を作成する。	建設事故データベースの共有 改善が必要な建設事故事例(3件)の分析(三原様) 上記事故対策について個別検討会議の実施(1／21) 参加者(オムロン松川様、JC三原様、事務局:上原、下川)	△	改善が必要な建設事故についての現状の対策と残留リスクについての理解は深めることができた。 ものづくり工場内で実施されている対策の建設現場への適用について提案までにとどまる	大人数での議論は、知識レベルも多様であり非効率であった。 少人数での議論の場を設定し、それ結果を委員会でレビューする進め方に変えていくことが必要。 また、協調安全に関する大枠での概念的な定義はされているが、現時点では、定量的な定義がないため、まず、委員会・研究内で「協調安全とは」について議論を重ね共通認識を作りこむ。
3. Safety2.0研究会 協調安全に係る新たな考え方を幅広く学び、これらを具現化するための技術を調査、研究する。	メンバーが参画されている学会等での協調安全に関わる情報を共有した。 第2回(8／29) ・人の行動分析に基づいた安心停止スイッチの提案(中坊様) ・ISO 31101に基づく適合性評価とロボットサービスの安全管理システムのケーススタディ(中坊様) 第3回(11／26) ・AI、ロボティクスを安全性とウェルビーイングのために活用(谷川委員長) ・踏切制御における協調安全の適用(中村様) ・鉄道(在来線)の自動運転とリスク(中村様)	○	協調安全を実現する上での様々な観点からの情報を共有することができた。	来年度も継続する

注) 評価

90～100%達成	○
50～89%達成	△
50%以下	×

2024年度活動総括

* 主に成果を中心に

1. “人と機械の共存環境における安全方策の課題や 困り事”のアンケートを実施した結果、共通の課題、困りごとがあることが明確になった。
2. トヨタ様制作の協調安全ガイドブックについて、討議によりリスクアセスメントの標準化を目的としてワーキンググループを設立して原案作成に着手する
3. モノづくりEXPO2024において協働ロボットによる新たな安全方策(カメラを使用した作業者の力量による安全距離の変化)を委員会として提案展示する。

重点テーマ	2024年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. 委員からの協調安全の課題、不足点などの発表から、取組テーマを、抽出して決定する。	・5月に委員会メンバーに“人と機械の共存環境における安全方策の課題や 困り事”のアンケート実施 (6社から提出) ・11月に下記3点ヒアリングお願い * 「人と機械の共存環境における安全方策の課題や困り事」 * あったらしいな、機器・機能の要件 * 力量と熟練者の有無の判断基準に関する (7社から提出) ・安全距離、人体検出センサ、セーフティモーションについて勉強会を実施し、現状での解決策と課題について討議した。	○	・2回のアンケート結果を踏まえて、人と機械との共存環境における安全方策での課題・困りごとについて各社とも共通事項が多いことが解った。 * 安全距離を順守による作業の非効率 * PLdの人体検出センサ(人体と物体の区別)・距離センサ(人と危険源) * 協働ロボットにおける生産性を考慮した活用 * 人の力量の活用は定まっていない。 上記課題に対する解決方策として、人体検知センサの勉強会とセーフティモーションの活用アプリケーションについて討議した。	アンケートの回答が多く协会会员社から得られなかったので、今後はいかに多くの会員から回答頂けるように工夫する。 アンケートのヒアリングを結果を分析して、来期以降下記進め方を委員会で討議していく。 * 現状規格での安全機能を活用にによる安全対策例をまとめる * 将来的に規格化すべき点あるいは開発すべき安全機能を整理する。
2. 標準化テーマを優先順位を決めて体制を検討して討議する。 第一段: 協調安全のリスクアセスメント	・トヨタ様の「協調安全ガイドライン」について委員からコメント(215件)頂きその内容について討議した結果を踏まえて、協調安全のリスクアセスメントについての標準化を進めることにした。 ・標準化を進める為ワーキンググループ(12名)を設立して5月のキックオフ会議から10回実施して協調安全のリスクアセスメントにおける従来規格との差別化、作成規格の骨子を討議した。	○	・リスクアセスメントWGにおいて討議結果、開発するリスクアセスメントのスコップ、要求事項含めた記載内容について整理して、規格原案の作成を開始した。	規格原案作成は、委員からの意見調整に時間がかかることが多い。来年度は、JIS化に向けて規格原案を期限までに作成しなければならないので、スケジュール管理と効率的な意思決定を心掛けていく。

注) 評価
90～100%達成
50～89%達成
50%以下

○
△
×

SA協議会

2024年度活動結果

2024年度活動総括	* 主に成果を中心に
1. 部会の統合と部会長の交代により、体制の刷新を行った。	

重点テーマ	2024年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. 資格者のレベルアップと社会的認知度向上のための活動 ・協議会、部会で具体的案の検討 ・外部団体との交歓会、情報発信の検討、実施	SA部会 関東、関西、中部のWG統合 部会長の交代 月次の部会における情報交換 SO部会 部会長の交代 RSA部会 スキルアップミーティングの企画、運営	△	SA部会 部会内での活動は活発に実施できた 外部団体との交流を持つことができなかった SO部会 部会員増加による活動の活性化を目指し、部会入会登録のシステム化。 RSA部会 RSA部会スキルアップミーティングを11/27実施、77名が参加。	SA部会 オンラインのみならず、対面での会合の実施 外部団体との交流 SO部会 部会長の交代に伴い新体制への移行に手間取った。会員増で単独SUMの実施に向けて計画を行う。+M15:U15 RSA部会 国際規格改定に伴う勉強会等新たな活動の企画、運営の実施
2. SA、RSA、SO資格者間の情報交換会・勉強会の実施 ・各部会連携スキルアップミーティング(SUM)の開催(各部会ごと、合同) ・SUMのアンケートから資格者のニーズ、会社、業界での評価調査実施 ・リスクアセスメント支援 Workshop開催とSUMでの成果発表	スキルアップミーティングの実施(予定) ・2/21: 向殿安全賞受賞者、GISHWと大阪万博 ・3/7: 機械メーカーと機械ユーザのリスクコミュニケーション 勉強会の実施(予定) ・3/12: Safety2.0勉強会	○	資格者企業による安全への取り組みについて、情報共有ができた IGSAPの活動を資格者に紹介することができた	スキルアップミーティングの継続実施 GISHWと万博への参加

注) 評価

90～100%達成
50～89%達成
50%以下

○
△
×

ロボットシステム安全部会

2024年度活動結果

2024年度活動総括	* 主に成果を中心に
1. WRS2025開催に向けての支援活動の確認	
2. WRS競技向け安全要求仕様最終版	
3.	

重点テーマ	2024年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. WRS2025に向けての支援準備 ・安全要求仕様の実施に向けての精査、参加者向けロボット安全講習企画、安全監視団スキル標準化企画等	WRS2025でロボットシステム安全部会として支援項目の確認。	○	2024年3月のWRS2025開催公表を受け、WRS2025モノづくりロボットチャレンジの競技概要及びIGSAPとして支援内容についてまとめ、第3回ロボット委員会＋ロボットシステム安全部会にて協議を行った。	前回のWRS2020での活動を踏まえて、モノづくりチャレンジ競技での競技中での安全を確保できるよう関係部署と連携しながら支援していく。
2. 安全要求仕様、リスクアセスメントひな形の共有化推進 ・IGSAPホームページによる公開及び論文等による広報	WRS競技用作成した安全要求仕様及びリスクアセスメントひな型をIGSAPホームページに公開。	○	WRS2020で作成した安全要求仕様の正本版編集及びリスクアセスメントひな型をIGSAPロボット委員会のHPIに公開した。	競技参加者及び安全監視団へ競技中の安全確保のための支援活動を実施していく。
3.				

注) 評価

90～100%達成
50～89%達成
50%以下

○
△
×

ウェルビーイング・テック部会

2024年度活動結果

2024年度活動総括	* 主に成果を中心に
1. ウェルビーイング・テックの実証事例からの評価基準検討、策定を行う	
2. ウェルビーイング・テックの実証事例の学術的公開とウェルビーイングテックの広報活動を行う	
3.	

重点テーマ	2024年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. ウェルビーイング・テックの実証事例からの評価基準検討、策定を行う	一昨年度に収集した以下の3事例について、ウェルビーイング・テックの評価基準を検討するため、現場での実証を計画した。しかし、いずれの事例も実運用段階には至らず、実証は断念する結果となった。 事例1. 無線で操作できる非常停止スイッチ 事例2. 高所作業車のフットスイッチ 事例3. 壁際での作業を効率化するアルミ合金製可搬式作業	×	期中に現場での実証が困難であることが判明したため、2024年度は学術的な成果の公開および広報活動に注力する方針に修正した。	2025年度より、ウェルビーイング・テック部会は廃止とし、今後は各技術委員会において協調安全の実証事例とあわせて、ウェルビーイング・テックの取り組みを継続していく方針とする。
2. ウェルビーイング・テックの実証事例の学術的公開とウェルビーイングテックの広報活動を行う	学術的公開として以下を実施した。 6月 SIAS2024 9月 日本機械学会(一般講演) 9月 日本機械学会(招待講演) 12月 SICE(SI)分科会 12月 産業行動分析学研究会 2月 安全工学会 3月 産業行動分析学研究会	○	多数の学術発表を通じてウェルビーイングに関する広報活動を展開するとともに、評価基準の方向性を示唆する有益な情報を発信することができた。	同上
3.				

注)評価

90～100%達成

50～89%達成

50%以下

○

△

×

2024年度活動総括

* 主に成果を中心に

1. IECEEにて審議中のCoPCプログラムにつき国際ワークショップへのJC支援を行い、JCのプレゼンス向上に貢献した。
2. 新SO(建設)分野に対応したSO資格制度の改正、規格改定を完了し、2024年度11月から建設SO資格の受験申込開始した。
3. 建設現場への7ゴールデンルールの適用ノウハウにつき、産業安全衛生大会にて公表して一定の浸透が図れた。

重点テーマ	2024年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. Safety2.0適合審査登録制度の見直し・国際化	1) 制度運営に係るJCへのCoPC国際化推進支援 2) 各種行事・講演会等を通じた制度のプロモーション 3) 欧州機械規則とSafety2.0基準との要求事項のギャップ分析	○ ○ △	1) JC専門家をIECEE WG34: CoPCの正式メンバーとして登録し、JCの意見反映を可能とした。 2) Safety 2.0適合審査制度普及のため制度規程の改定を、12/12の理事会に提案し、承認を得る。 両者既定の比較表作成途上であり未完成	・Safety 2.0についての国際化については進展はしなかったが、Safety 2.0適合審査制度の関連規程を見直し、アセッサ資格者の活用などを目的に改定を行った。 ・大学等外部の各種団体からの講演依頼に応じて、適宜制度のプロモーションを継続して推進する。 ・CoPCの国際化に関して、JCが国際審議の正式メンバーに就任したことにより、JC負荷を最小化すべく更なる支援が必要。
2. 新SO分野に対応したSO資格制度の改正検討、規格改定	1) 新SO分野(建設)に対応した資格要件、制度内容の検討、確立 2) 新SO分野に対応した資格制度規程、手続き規則の提案、承認 3) 新SO資格制度の運用チェック、結果評価	○ ○ ○	1) 建設SO分野に対応した資格要件、制度内容の検討、確立を5月に完了した。 2) 建設SO分野に対応した資格制度規程、手続き規則を5/30の理事会に提案し、承認を得る。 3) 建設SOのトライアル試験を建設委員会の協力を得て9月に実施し、運用チェック及び結果評価を行い制度上全て問題無いことを確認した。	・建設SOの制度化、運用構築を目標通り今年度実施できた。 ・建設SO資格が、建設業界に定着するよう、建設委員会などの協力を得ながら普及拡大を図って行く。
3. 建設向け7ゴールデンルールの活用促進	1) ゴールデンルールの建設現場適用ノウハウまとめ 2) 活用推進に向けたシンポジウムの開催(国内外向け) 3) 個別現場での実施結果のフォロー	○ × △	1) 昨年度実施したゴールデンルールのうち”危険源を同定し、リスクをコントロール”について建設における具体的な活用方法の発表(全国産業安全衛生大会)を行った。 2) 今期は建設7GRsシンポジウムの開催に向けて、テーマ選定の準備にとどまった。 3) 個別現場で活用事例の紹介を行った。	・発表は建設系の安全衛生大会の方が効果的であるので、今後、発表の機会を検討すべき。 ・外部への発表やイベント開催については、業界からの関心度の高いテーマを捉えて実施計画を具体化する必要がある。 ・建設現場は現場毎に7GRsの項目の重要度が異なるので、現場のニーズについてコミュニケーションを図る必要がある。

注) 評価

90～100%達成	○
50～89%達成	△
50%以下	×

2024年度活動総括	* 主に成果を中心に
1. 新Webサイトを公開した(10月)	
2. 定期的に会員向けメールマガジンを発行した(4月、7月、10月、1月)	

重点テーマ	2022年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. IGSAP Webサイトの制作	IGSAP新Webサイトを公開した(10月)	○	以下目的に沿った新ウェブサイトを開示することができた。 ・会員企業に向けて 会員ページの設置：便益を提供し、IGSAP加盟の満足度向上の一助とする ・非会員・一般に向けて 最新の情報をわかりやすく整理し提供：IGSAPの認知度を高めることの一助とする	・公開後半年をめぐり、Webサイトの利用調査を実施、評価し、今後の改善点等について検討する。 ・GISHWなど関連する情報をタイムリーに提供する。 ・各委員会での活用促進を図る。
2. メールマガを利用した会員企業との継続的な関係作り	定期的に(4回／年)メールマガジンを発行した	○	以下の目的のために定期的にメールマガジンを発行し、IGSAP会員の満足度向上に貢献した。 -会員企業との継続的な関係づくり -IGSAP活動訴求・実行 また、KPIとして開封率を目標化することを試みている。	・開封率の目標設定と開封率向上施策の検討 ・適切なKPIの再検討

注) 評価

90～100%達成

50～89%達成

50%以下

○

△

×